

11月18日（水）に授業研究会を行いました。

- **5 限目**に本校の理科を担当している白神教諭が1年生を対象とした生物基礎の授業で「遺伝とその働き」と題した授業を行いました。

授業では、ジグソー法を活用し、それぞれ異なったヒントを与えられた3人が1組となり、互いに情報交換しあいながら正解にたどり着く手法が効果的に使われていました。また2学期以降に各教室に導入された短焦点のプロジェクターで映したDNAの映像が学習の理解を助けていました。



- **6 限目**は、広島大学大学院教授 草原 和博先生を助言者として研究協議を行いました。草原先生からは、授業の中で触れられた「セントラルドグマ」の概念をうまく使えば、学ぶことの意味を生徒に理解させることにつながられるのではというアイデアをいただきました。また「主体的・対話的で深い学びの実現」や「学びに向かう姿勢」を育てるためには、評価の工夫とともに様々な教科の授業の中で、自分の能力を安心して発揮したり、失敗したり、わからないことをわからないと言えるようなクラスの間関係づくりが必要であるといった助言もいただきました。

- **放課後**には、本校教員を対象として広島大学大学院教授の草原 和博先生を講師とし、「高等学校の授業改善の視点と方法—学びの意味・意義の追究—」というテーマで講演会を行いました。

「学ぶことの意味」を明らかにしながら授業をすすめることの大切さについて、改めて気づかせてもらえたお話でした。

今後、授業をすすめる上で常に意識していきたいと思います。



5 学びの意味・意義を求めて
—「こそ」と「とって」—

- **学校でこそ, 教科でこそ学ぶ意味**
“rigorous” (深まり)
→ 社会の見方・考え方を働かせた深い学び
- **私にとって, 社会にとって学ぶ意味**
“relevance” (関わり)
→ 社会のあり方, 私の生き方にせまる重い学び